

「東郷学園義務教育学校の山田地区俵踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	薩摩川内市立東郷学園義務教育学校
2. 学年・人数	5年生～7年生探究グループ、8年生地域代表 計20人
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和6年9月～10月 ふるさと・コミュニケーション科(本校会議室) 令和6年10月31日 学園祭りハーサル(本校体育館) (2) 発表の日時・場所 令和6年11月1日 東郷学園義務教育学校学園祭(本校体育館)
4. 伝承・活用に 取り組んでいる 郷土芸能、伝統 行事、伝統工芸 品について	(1) 名称 俵踊り(たわらおどり) (2) 由来 五穀豊穡を祈願する踊りとして昭和初期のころから始まり踊り継がれている。戦後まもなく若い後継者に踊り継がれるようになった。昭和34年に地元で踊られたのが最後となっていたが、平成10年に地域の方々の記憶をたどりながら復活し、稽古に励んでいる。 (3) 構成等 音楽が鳴り出すと、踊り子が俵を担いで入場し、途中で山型に積み上げる。踊り子の一人が俵を取って先頭の踊り子に渡す。豊年の喜びと苦労などを盛り込んだ変化の激しい踊りである。扮装は、紺の着物に赤色のお腰をのぞかせる。頭にはソロバンタオルを姉さんかぶりにし、歌に合わせて踊る。
5. 文化財伝承・ 活用の取組にお いて地域との連 携や工夫した点 等	5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習において、「プロジェクト伝統チーム」コースを設定して伝承活動の取組について学習している。過去、学習発表会や5～7ステージ交流学习で発表した。また、山田地域の祭りである「サンデンフェスタ」において、8年生男子が唯一の男踊り手として、踊りの輪に加わって披露した。 児童生徒に、東郷地域の一員としての自覚や地域を誇りに思い、大切にしていこうという心情を育むためにこれらの学習は続けていきたい。
6. 取組の様子 (練習状況、発 表の場等)	学園祭での発表(5～7年) サンデンフェスタ
7. 感想・意見 (参加児童生徒・ 保護者・保存 会・教員等)	【参加生徒】 - 自分たちで実際に調べたり、他の班の発表を聞いたりして、東郷のいろいろな魅力や課題が分かった。たくさんの魅力がある東郷を8・9年では、地域外の人に知ってもらい、発信していきたい。 - 舞台発表の時に、俵踊りの「俵を投げる」様子の再現がうまくできてよかった。